

■農研機構の堀江理事長が国営神流川沿岸地区を視察

当日10月28日は、台風14号の接近の影響を受け、朝からあいにくの雨模様となり、傘を差しての行程となりました。堀江理事長の専門は作物学、生物環境、環境科学などであり、水稻の多収機構の生態生理などの先端研究からアジア・アフリカの天水田・焼畑のフィールド研究まで、学問領域も行動範囲も共に幅広く活動されています。

これまで農業農村整備事業の現場を視察される機会がなかったことから、来年度から開始される第3期中期目標期間（H23年度～H27年度）を見据えて、農工研の研究成果がどのように現場に受け渡されているか、直に見ていただくことになりました。

- ・国営事業によって、神流川頭首工は全面改修。
- ・正面の上屋は、土砂吐ゲートの巻き上げ機が腐食・劣化しないように格納するため新設された。
- ・頭首工の下流側（向かって奥）の河床が経年的に低下しているため、頭首工の下流側護岸や魚道の設計には河床低下が見込まれている。



- ・水路壁の劣化が進み、通水機能が低下し、漏水箇所が増加したため、長寿命化対策として、コンクリートの表面にポリマーセメントを塗り固めるという水路の補修工法を見学。
- ・この補修工法は、農工研が民間と共同開発したもの。（関連 URL）

<http://nkk.naro.affrc.go.jp/merumaga/04/03-01.html>



- ・シールドと呼ばれる鋼製の枠を地中に掘進させながら、掘削、覆工などを行いトンネルを構築する現場を視察。
- ・新たなパイプライン路線の建設がどのように行われているか、実際に地下の現場に下りてトンネル内を見聞。



- ・約30年前に敷設されたパイプラインの露出現場で、管の老朽化によって漏水等の機能低下が進み、メンテナンスに多大な費用を要しているという実態について、事業所の小久保次長の説明を聞く堀江理事長。
- ・向かって理事長の右隣は、順に、伊東監事（本部）、小前理事（農工研所長）、八巻理事（本部）。
- ・事業所の皆様には丁寧に対応いただきありがとうございました。m(_ _)m

